

## 第5章 社会全般

### 有事のインターネットの力

#### 情報手段としてのインターネット

インターネットが世界中に普及した現在、インターネットは多くの人々にとって欠かすことのできない情報交換手段となり、大規模な紛争、戦争、あるいは自然災害などが発生すると、多くの人々がインターネットを用いた情報交換を活発に行うようになった。

日本において、大規模災害時にインターネット上での情報交換が初めて積極的に行われたのは、1995年の阪神大震災の時である。当時の日本のインターネットは、普及期に入ったばかりであったが、電子メールやネットワークニュースを利用したさまざまな情報交換が行われた。それから5年が経過した本年3月31日には、北海道の有珠山が噴火した。そして、わずかな間にさまざまなホームページが作られ、たくさんの情報が交換され始めた。6000人以上の人々が命を落した阪神大震災と比べると、死者や負傷者がいない今回の噴火に伴う被災地の混乱は明らかに少ないが、インターネット上での情報公開・交換の規模は、質的にも量的にも比べものにならないほど大きい。この5年間に、人々の間にインターネットが浸透し、情報発信・共有の手段としてすっかり市民権を得たことがここに如実に表れている。

海外に目を向けても同様の傾向がある。阪神大震災が発生する1年前の1994年1月17日には、ロサンゼルスで大地震があった。この時、電子メールやネットワークは利用されたが、インターネット上で多数の市民が大規模な情報交換を行うには至らなかった。しかし、その後の6年の月日は世界を変えてきた。昨年トルコや台湾を襲った大地震では、インターネット上で多数の情報が交換・公開され、被災地の人々のコミュニケーションを支援した。1998年のコソボ紛争でもインタ

### 有珠山噴火、コソボ紛争など 非常事態にインターネットが果たす役割

ーネットは大いに活躍した。たとえば、米  
国赤十字社はコソボ難民の安否を調べ、  
再会を支援するシステムを運用している。  
今でも「コソボ紛争」をサーチエンジン  
で検索すれば、この他にも多数の情報が  
検索できる。

#### 非常時にインターネットが 活躍する理由

インターネットが、非常時に活躍するのはなぜだろうか。インターネットには、誰もがアクセスでき、誰もが簡単に情報を公開したり交換したりすることができる。そして公開された情報は、国境を越えて世界中の人々の目に止まる。このことが、通常時だけでなく非常時においても人々にインターネットの活用を促している。インターネットは今後も非常時に活躍することは間違いない。ただし、改善すべき点はある。現在の利用のされ方は、情報をWWWを用いて公開するという単純な方法が圧倒的に多く、標準的な情報の公開方法や交換方法が確立しているわけではない。もし、非常時にこれらのための枠組みがあれば、非常時におけるインターネットの活躍は一層目覚ましいものになる。

#### 被災地の情報交換を支援する IAAシステム

ところで、著者が参加するWIDEプロジェクトには、日本のインターネットは自分たちが築いてきたという強い自負を持つ人々が多数集まっている。阪神大震災の惨状を見て、インターネットの力で非常時に人々のコミュニケーションを支援することが重要であることを痛感したメンバーは、1995年の夏にライフラインワーキンググループ（以下、Lifeline WG）を結成した。Lifeline WGの最初の取り組

みは、被災地の人々の情報交換を支援するシステムをインターネット上に構築する研究であり、その成果がIAAシステム **Jump01** である。IAAとは「私は生きているぞ（I am alive!）」という象徴的なフレーズの頭文字を取ったものであり、さまざまなユーザーインタフェースと分散データベースが特徴である。

Lifeline WGは、1996年以来、毎年1月17日には最新のIAAシステムを用いて公開運用実験をしているし、一部のメンバーは、毎年9月1日の防災訓練に参加して、IAAシステムの意義をアピールしている。今回の有珠山の噴火にももちろん対応し、実質的に初めてIAAシステムを「実戦投入」して人々の情報交換を支援した（4月末日現在で約2000件のアクセスがあった）。Lifeline WGは、現状には満足していない。たとえば、すでに述べたように情報交換の枠組みを決めれば非常時に多くの組織が相互に連携して情報を流通することができる。こうした連携は、意図的に流される可能性がある、誤った情報の検出や対処にも役立つに違いない。Lifeline WGでは、非常時に発揮されるインターネットの力を最大限に高め、国際的協調も視野に入れて活動を続けている。

なお、国内外の同様の取り組みについては、筆者の研究室のホームページ **Jump02** にも未完成ながらまとめているので参照されたい。

（大野浩之 郵政省通信総合研究所）

**Jump01** <http://www.iaa.wide.ad.jp>

**Jump02** <http://www.crl.go.jp/ts/ts221/>



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)